

2015年度緩和ケアチーム登録票（2015年4月～2016年3月）

登録および、施設名のホームページ公開について

1 この登録の目的は、本学会が全国の緩和ケアチームの活動の実態を明らかにし、National Dataとして把握することにより我が国の切れ目のない緩和ケアの提供に寄与することです。

2010年度、2011年度は第1段階として日本で活動する緩和ケアチームの形態を明らかにすることを目的にしました。

2012年度、2013年度、2014年度は第2段階としてどのような患者をどのような依頼理由で、診療しているかを明らかにしてきました。

2015年度は、経年的にデータを蓄積し我が国の緩和ケアチームの動向を明らかにしていきます。また、患者QOLを改善していくことを目的に、各施設の緩和ケアチームが自施設の活動を評価し、それぞれの施設で緩和ケアチームの活動を改善していくための自施設評価を実施していくための準備を進めています。

2 登録されたデータは施設名等や個人名が特定できできないように配慮し、厳重に管理致します。データの活用については理事会の承認を得て学会として活用します。

3 学会ホームページへの登録チーム掲載について

学会ホームページに、登録チームの施設名、連絡先（施設所在地・ホームページアドレス）のみを掲載する予定です。

※依頼件数の掲載を希望される施設のみ、依頼件数を掲載いたします。

- ・ 施設名・所在地・ホームページアドレスを公開することについて 希望する / しない
- ・ 施設名・所在地・ホームページアドレスに加え、年間依頼件数を公開することについて 希望する / しない

※ A:必須項目 B:努力項目

1. 施設について

※	設問項目	回答欄	回答の入力方法	備考
1 A	施設名	()	直接入力	
2 A	施設名(フリガナ)	()	直接入力	
3 A	所在地	都道府県	選択	
A	エリア区分	()	自動計算	北海道、東北、関東・甲信越・
4 A	所在地	〒	直接入力	
5 A	施設ホームページ URL	()	直接入力	
6 A	施設の種類の	大学病院・がん専門病院・その他の一般病院・その他	選択	いずれか1つ
	項目名を「大学病院・がん専門病院・その他の一般病院・病院以外のその他の施設」へ変更。 大学病院は「大学の付属病院のうち特定機能病院を有している病院」、がん専門病院は「がんを専門に診療している病院のうち年間総退院患者のがん患者割合が概ね8割を超えている病院」とする。			
7 A	がん診療連携拠点病院等の指定(2016年3月31日時点)	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定である「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定 ・国指定である「地域がん診療連携拠点病院」の指定 ・国指定である「特定領域がん診療連携拠点病院」の指定 ・国指定である「地域がん診療病院」の指定 ・国からの指定を受けていない病院 ・病院以外の施設 	選択	いずれか1つ
8 A	病床数	()床	直接入力	整数のみ
9 A	年間総退院患者数	()人	直接入力	整数のみ
10 A	年間がん患者退院数	()人	直接入力	整数のみ
A	がん患者割合	()%	自動計算	

2. 緩和ケア提供体制について

※	設問項目	回答欄	回答の入力方法	備考
	<p>【緩和ケア外来】 ここでいう緩和ケア外来とは以下のものを指す。 1) 緩和ケアチームが行う外来診療で『外来におけるコンサルテーション診療(たとえば外科の主治医が診療中に疼痛治療に難渋し緩和ケアチームに依頼があつて診療する)』と『緩和ケアチーム・緩和ケア外来担当者が緩和ケアを目的として独自に行う外来診療』の両方を指す。 2) 外来患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛を包括的に評価し、必要に応じて疼痛・身体症状の緩和に関する専門家や精神症状の緩和に関する専門家と協力する体制がある。 3) 緩和ケア科、緩和医療科、緩和治療科など患者・家族に対する包括的な緩和ケアを行う外来であることが組織上明確にされ、患者・家族に示されている(「外科」「化学療法科」の一部として緩和ケアを行っているのではないことがわかること)。 4) ホスピス・緩和ケア病棟の入院予約や相談のみを業務としているもの、および、ペインクリニック・精神科など疼痛や精神症状等に限定したサービスを行う診療科の外来は除外する。</p>			
1	A 緩和ケア外来の有無	有り 無し	選択	
2	A ※1の回答が「有り」の場合 ⇒ 緩和ケア外来診察患者数	延べ()人/年	直接入力	整数のみ
3	B ※1の回答が「有り」の場合 ⇒ 新規の緩和ケア外来診察患者数	()人/年	直接入力	整数のみ
4	A ※1の回答が「有り」の場合 ⇒ 緩和ケア外来の開設日数	()日/週	選択	
5	A ※1の回答が「有り」の場合 ⇒ 緩和ケア外来の開設時間数	()時間/日	直接入力	小数点第一位まで
	<p>【診察患者数】 診察患者数とは1年間に外来で診療を行った延べ人数をさす(同一患者含む)。入院との重複は可(入院中緩和ケアチーム診療を行っていた患者が退院して緩和ケア外来に移行したのも外来患者数としてカウントする)。</p>			
	<p>【緩和ケア病棟】 悪性腫瘍の患者または後天性免疫不全症候群に罹患している患者を入院させ、緩和ケアを一般病棟の病棟単位で専門に行うものであること。緩和ケアを担当する医師が1名以上いること。</p>			
	<p>【参考資料】 緩和ケア病棟入院料の施設基準 2014 医科診療報酬点数表より引用 (1) 主として悪性腫瘍の患者又は後天性免疫不全症候群に罹患している患者を入院させ、緩和ケアを一般病棟の病棟単位で行うものであること。 (2) 当該病棟において、一日に看護を行う看護師の数は、常時、当該病棟の入院患者の数が七又はその端数を増すごとに一以上であること。ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護師が本文に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護師の数は、本文の規定にかかわらず、二以上であることとする。 (3) 当該療養を行うにつき十分な体制が整備されていること。 (4) 当該体制において、緩和ケアに関する研修を受けた医師が配置されていること(当該病棟において緩和ケア病棟入院料を算定する悪性腫瘍の患者に対して緩和ケアを行う場合に限る)。 (5) 当該療養を行うにつき十分な構造設備を有していること。 (6) 当該病棟における患者の入退棟を判定する体制がとられていること。 (7) 健康保険法第六十三条第二項第四号及び高齢者医療確保法第六十四条第二項第四号に規定する選定療養としての特別の療養環境の提供に係る病室が適切な割合であること。 (8) がん診療連携の拠点となる病院若しくは財団法人日本医療機能評価機構等が行う医療機能評価を受けている病院又はこれらに準ずる病院であること。 (9) 連携する保険医療機関の医師・看護師等に対して研修を実施していること。</p>			
6	A 外来緩和ケア管理料の算定有無	有り 無し	選択	
7	A 緩和ケア病棟の有無 (注:病棟単位でない緩和ケア病床は除外)	有り 無し	選択	
8	A ※6の回答が「有り」の場合 ⇒ 緩和ケア病棟入院料算定の有無	有り 無し	選択	
9	A ※6の回答が「有り」の場合 ⇒ 緩和ケア病棟の病床数	()床(注:病棟単位でない緩和ケア病床は除外)	直接入力	整数のみ

3. 緩和ケアチーム 構成

※	設問項目	回答欄	回答の入力方法	備考
	<p>【緩和ケアチーム】</p> <p>ここでいう緩和ケアチームとは、「緩和ケアを専門とする医師、看護師等を含めたチームによる緩和ケアの提供体制」を指し、以下の2項目を満たす場合に緩和ケアチームがある、とする。</p> <p>1) 緩和ケアチームに常勤の医師が1名以上配置されている(専従である必要は無い)</p> <p>2) 紹介患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛に包括的に評価し、必要に応じて疼痛・身体症状の緩和に関する専門家や精神症状の緩和に関する専門家と協力する体制がある(ペインクリニック、サイコオンコロジーなど特定の領域に限って対処しているのではなく、患者の苦痛全てに対応が可能)</p>			
1	A: チーム名称	()	直接入力	
2	A: チーム名称(フリガナ)	()	直接入力	
3	A: (チームのホームページURL)	()	直接入力	
4	A: 登録者名	()	直接入力	
5	A: 登録者名メールアドレス	()	直接入力	
6	A: 緩和ケア診療加算	有り 無し	選択	
7	A: ※6の回答が「有り」の場合 ⇒ 緩和ケア診療加算算定開始年月	()年()月	選択	年・月
	<p>メンバー構成</p> <p>【常勤について】</p> <p>「常勤」とは、当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべて勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとします。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなしません。</p> <p>【常勤の専従・常勤の専任・常勤の兼任について】</p> <p>「常勤の専従」とは、常勤で就業時間の8割以上緩和ケアチームに関わる業務に従事していることをいう。</p> <p>「常勤の専任」とは、常勤で就業時間の5割以上緩和ケアチームに関わる業務に従事していることをいう。</p> <p>「常勤の兼任」とは、常勤で緩和ケアチームに関わる業務を行っているが、従事する時間が就業時間の5割に満たない場合をいう。</p>			
8	A: 身体担当医	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ
9	A: 精神担当医	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ
10	A: 看護師	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ
11	A: 専門看護師	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ
12	A:	分野:がん()人 精神()人 その他()	直接入力	「その他」は自由記載、それ以外は整数のみ
13	A: 認定看護師	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ
14	A:	分野:緩和ケア()人 疼痛()人 その他()	直接入力	「その他」は自由記載、それ以外は整数のみ
15	A: 薬剤師	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ
16	A:	分野: がん専門薬剤師()人 がん薬物療法認定薬剤師()人 緩和薬物療法認定薬剤師()人	直接入力	各回答とも整数のみ
17	A: MSW	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ
18	A: 臨床心理士	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ

19	A	リハビリテーション専門職種	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ
20			職種別人数:PT()人 OT()人 ST()人	直接入力	各回答とも整数のみ
21	A	栄養士	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ
22	A	歯科医	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ
23	A	歯科衛生士	常勤の専従()人 常勤の専任()人 常勤の兼任()人 非常勤()人	直接入力	各回答とも整数のみ
24		その他の職種	()	直接入力	

4. 緩和ケアチームの活動

※		設問項目	回答欄	回答の入力方法	備考
1	A	緩和ケアチームが診療している患者に対して原則として週1回以上の直接診療を行っており、かつ、必要な場合に平日の日勤帯はいつでも緩和ケアチームのいずれかのメンバーが患者を直接診療できる体制がある	はい いいえ	選択	
2	A	緩和ケアチームのいずれかのメンバーが、患者を直接診療する活動を行っている日数	一週間あたりの日数(0~7日)	選択	週1回に満たない場合は「0」を選択
3	A	緩和ケアチームは少なくとも週1回、メンバーでカンファレンス、または、回診を行っている	はい いいえ	選択	

5. 入院患者対象 コンサルテーション実績

※	設問項目	回答欄	回答の入力方法	備考
	【件数について】 1依頼=1件とする ・a)緩和ケアチームとして包括的なアセスメントを行い、記録(実施計画書作成)を行ったものを1件とし、簡単で短時間で終わる電話コンサルテーション等は除く ・b)推奨とその評価を行ったものを1依頼とする ・c)一旦退院し介入を終了した患者が再入院し、再度依頼があった場合は新規の依頼とする(1人の患者を複数回とカウントする場合がある)			
1	A 年間依頼件数	()件	直接入力	整数のみ
区分				
2	A がん	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
3	A 非がん	()件		直接入力 整数のみ
がん患者(小児がん含む)について				
依頼の時期(がん患者のみ・小児がん含む)				
4	A 診断から初期治療前	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
5	A がん治療中	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
6	A がん治療終了後	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
依頼時の依頼内容 延べ件数(がん患者のみ・小児がん含む)				
7	A 疼痛	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
8	A 疼痛以外の身体症状	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
9	A 精神症状	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
10	A 家族ケア	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
11	A 倫理的問題(鎮静など)	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
12	A 地域との連携・退院支援	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
13	A その他	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
PS値(依頼時)(がん患者のみ・小児がん含む)				
14	A PS=0(無症状で社会活動ができ、発症前と同等にふるまえる)	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
15	A PS=1(軽度の症状があり、肉体労働は制限を受けるが、歩行、軽労働は可能)	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
16	A PS=2(歩行や身の回りのことはできるが時に介助が必要。1日の50%以上は起居)	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
17	A PS=3(身の回りのことはある程度できるがしばしば介助が必要。1日の50%以上は就床)	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
18	A PS=4(身の回りのこともできず、常に介助がいり、終日就床が必要)	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
PSはここではECOG (Eastern Cooperative Oncology Group) の分類を用いる。				
転帰(がん患者のみ・小児がん含む) ※1入院につき1転帰				
19	A 介入終了(生存)	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
20	A 緩和ケア病棟転院	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
21	A その他の転院	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
22	A 退院(死亡退院、転院は含まない)	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
23	A そのうち在宅ケアを導入した数	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
在宅ケア導入とは、訪問看護ステーションまたは在宅医の介入手配を行ったうえで退院した場合をさす。				
24	A 死亡退院	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ
25	A 介入継続中(3月31日) (退院後に外来で継続中は含まない)	()件	小児がん()件	直接入力 整数のみ

非がん患者について			
病名(非がん)			
26	A	神経疾患	()件
27	A	呼吸器疾患	()件
28	A	循環器疾患	()件
29	A	腎疾患	()件
30	A	その他	()件
依頼時の依頼内容 延べ件数(非がん)			
31	A	疼痛	()件
32	A	疼痛以外	()件
【疼痛以外】の詳細な依頼内容 延べ件数(非がん)			
33	A	疼痛以外の身体症状	()件
34	A	精神症状	()件
35	A	家族ケア	()件
36	A	倫理的問題(鎮静など)	()件
37	A	地域との連携・退院支援	()件
38	A	その他	()件

6. 緩和ケアチームによる教育・研修				
※	設問項目	回答欄	回答の入力方法	備考
	【緩和ケアチームによる教育・研修】			
	ここでは、緩和ケアチームが主催もしくは、緩和ケア科などの緩和ケアを専門にケアを提供する科、緩和ケアチームの委員会などが実施する教育・研修をいう。			
1	A	医療者向け教育研修会(院内・院外)の開催回数	()回/年	直接入力 整数のみ
2	A	地域住民向けの講演会の開催回数	()回/年	直接入力 整数のみ